

長・中期経営計画

長期経営計画「Progress2030」

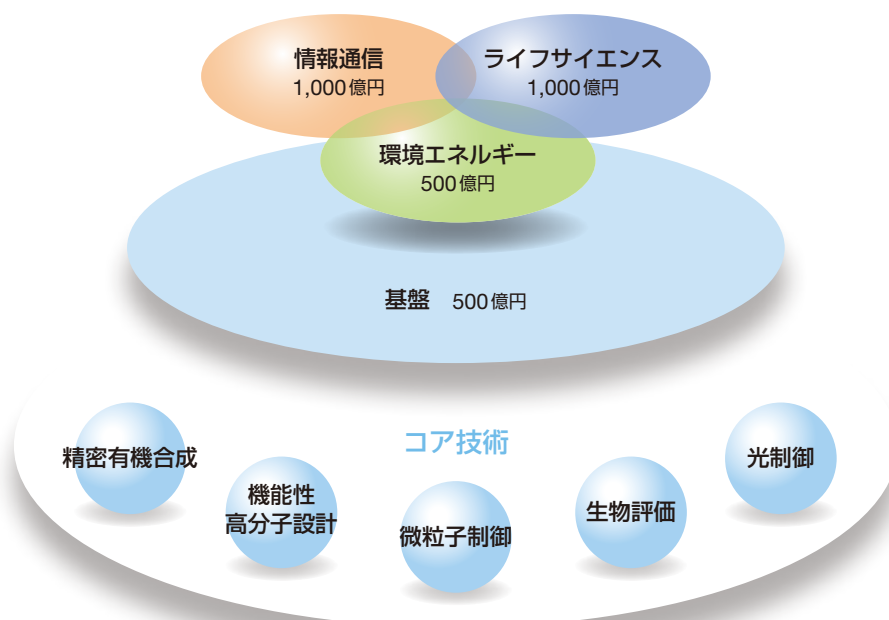
当社は2030年をゴールとする長期経営計画「Progress2030」、および6カ年の中期経営計画「Vista2021」を2016年4月より始動させています。

「Progress2030」の策定においては、2030年に至る社会・経済の変化をグローバルな視点で見据え、当社グループはどこへ向かうべきか、何ができるのか、何に貢献するのかについて議論を重ねました。ESG（環境・社会・ガバナンス）、SDGs（持続可能な開発目標）などの社会課題を踏まえ、「人と環境にやさしい未来を創る企業グループとなること」を目指しています。そのうえで、ビジネスモデルを「独自の革新的な技術で社会の要請に応える未来創造企業」とし、2030年

の企業像を「グローバルに変化する社会と向き合い、社内外の知を融合することで、人々の豊かな暮らしに役立つ新たな価値を提供する企業グループ」「培った信頼と磨き上げた技術により、情熱をもって未来を切り拓く、一流の挑戦者集団」と決めました。

2030年の数値目標として、売上高3,000億円、営業利益500億円を掲げ、「精密有機合成」「機能性高分子設計」「微粒子制御」「生物評価」「光制御」の5つのコア技術をもとに、「情報通信」「ライフサイエンス」「環境エネルギー」「基盤」の4事業領域でグローバルな課題解決に寄与し、社会の発展と企業価値向上を図っていきます。

2030年の売上目標とコア技術



中期経営計画「Vista2021 Stage II (2019～2021)」

「Vista2021」は、2030年へ至る通過点として、バックカスティング手法(未来の姿から逆算した現在の施策設定)により、2021年の「あるべき姿」を示す6カ年の中期経営計画として策定しました。

「Vista2021」の前半であるStage Iの3カ年について、順調に推移をしてきましたが、今後の成長をより確かなものにするための3つの課題、「収益が一部の製品に偏っていること」「新製品の創出・実需化が遅れていること」「成長の阻害要因となるリスクへの備えが十分にできていないこと」が明らかになりました。

そのため後半のStage IIの策定にあたっては、2021年の「あるべき姿」として、「機能性材料および農業化学品事業が業績を牽引し、次の成長エンジンが生

まれている」「挑戦を楽しむ組織が実現し、多様な人材が目標に向かって能力を発揮している」「事業活動を通じて、社会の持続的な発展に貢献している」の3つを描きました。また、その実現のための基本戦略として、Stage Iでの課題を踏まえ、「成長の源泉となる製品の利益拡大」「新製品創出力の強化」「社会・市場の変化への対応力向上」の3つを設定しました。

Stage II最終年度である2021年度の数値目標については、売上高2,350億円、営業利益430億円、経常利益440億円、当期純利益330億円、売上高営業利益率18.3%とし、グループの総力を挙げて取り組みを強化しています。

2021年のあるべき姿

- 機能性材料および農業化学品事業が業績を牽引し、次の成長エンジンが生まれている
- 挑戦を楽しむ組織が実現し、多様な人材が目標に向かって能力を発揮している
- 事業活動を通じて、社会の持続的な発展に貢献している

基本戦略

- 成長の源泉となる製品の利益拡大
- 新製品創出力の強化
- 社会・市場の変化への対応力向上

経営指標

	2019年実績	2020年実績	2021年目標	2030年目標
売上高	2,068億円	2,091億円	2,350億円	3,000億円
営業利益	386億円	425億円	430億円	500億円
経常利益	400億円	439億円	440億円	—
純利益	308億円	335億円	330億円	—
売上高営業利益率	18.7%	20.3%	18.3%	—
ROE	16.9%	17.5%	16%以上	—
配当性向	42.8%	44.9%	45%維持	—
株主総還元性向	75%	75%	75%維持	—